### 待望の全校舍完成 10 1 HTE HTE

星



京都市北区小級陳南町 TEL@2334

# 解説つきの祝別式

最後に、生徒、父兄は古屋司数よ り祝福を受け祝別式は終了した。 講賞の正面へ口上にかがげられた 清めが行なわれ、キリストの像が 説が行なわれた。ほどなく行列は なわれるために、特に日本語で解 再び講堂にもどり、続いて講館の は、視別式の祈りがラテン語で行 れ、次に行列は二階、三階の数割 よつて行なわれた。壮国な音楽の を祝別するため出発した。この日 **金量超立のうちに、祈りが行なわ** 止面入口から入場し、祭壇へ進む 響言わたる中をしずしずと行列は 別式が京都数区長の古屋司数に まず院式が資せられる。続いて もしれない。だが現々は水湿に耐 めざして努力しようという決心を は校舎完成にあたり、魂の完成を 請うと挨拶を行つた。又古屋司教 校舎が完成した。今後とも協力を **徳諸君、先生方のおかげで立派な** は、手紙をもつて父兄の方々、生 に行つておられるために、理事長 いと挨拶した。理事長が現在台湾 びない立派な建物を、この新しい 完成した。しかしてれば滅びるか ものの価はむなし」という言葉を 建物において作り上げねばならな 月用して、今ことに立派な校舎が 「神家をたてたまわずは、たつる

京都府知事代理岡田交教課長の祝一了した。 新らたにしようと祝辞を述べた。 | 辞に続き板派を所唱、落成式は終 は次のとおりであつた。

、祝別式

一、司數祝辞

一、閉会の辞 一、校歌齊唱 、完会の辞

、理事長挨拶 、學校長挨拶 、国歌哲唱



莊嚴な祝別式 5 6) F

うらには、パラツクの様な建物が

もひん房であつたと思う。 あつた。今と比較すれば、何もか

中だるみと

してはつておける問題一めるかは生徒の間にあるのだ。

ただよつているという事は、単に

しでもその様な気配が一らない。これから順放的気分の起

つている雰囲気の学校をどうすす

た。その時、僕はこの様な事を考 多くの同級生と共に学校に登校し 望と喜びに腕をふくらませ新しい のは昭和三十年の春であつた。希 僕遠第四回生が本校に入学した │ 果して現在の洛星というものが、 問われる時、 過去に対し

○との学校に入つたからにはその

活面に役立てよう。

えていた。

ち、我々の生活、心郷、層匪の誤 O友人遠との交りを良きものにし ん、現在の中央玄関に当る建物も まりや湿地が多く、せりまで生え 草がぼうぼうとおいしげり、水た 時はまだ運動場の西の方には、 ているという有様だつた。もちろ 援は大いに変化した。 入学した当 なく解望もなかつた。まだ校舎の それからもう二年半の月日がた一僕の心境は何かみたしきれぬもの て、愉快な学生々活を送ろう。 特殊な学校方針を良く理解し生 中だるみにす 一つたのだと思う。しかし、現在の一てる前の土ならしの時期であつて 行は「生徒」 いう感じた。同級生にもその意見出発はとうてい望めない。今まで情性で、生徒会を延營しているとこの五年間の土台なくして新しい で一杯である。僕の此頃の学校生 被はいい学校だという呼判が広ま はないだろうか、今までは宗老建 た。それだからこそ浴場という学 年こそほんとうの意味での出発で なつたのか。 の者が多い かし、中学の最高学年 すぎないというかもし一た道がよいかわるいかはこの学校 心得」におしまくられ一るということは不可能なように、 或る人は、一時的な 何故その様な事態に 今から出発する時間の時期だと思 う、土ならしをしないで家を建て に
在学しているのではつきりわか 発が容易である。 今まで進んで来 がしつかりしていればいるほど出

堂に入場、中二は祝別式のため新校舎の賦下に一列に並ぶ。壇上には桑境が設けられている。こうして式の準備は整のつた。式の次第 完成記念」のアーチがつくられ、 一陪学には父兄の姿が次々とアーチをくぐつて 新譜堂へ前えて行く。 二時過ぎに中三以上の生徒も 講 九月十五日、午後二時より、洛星の講館報体育館及び音楽室等の落成式が新譜盤において発行された。中央の門には「祝洛星会校舎 3

今年は又、全学年が初めてそろつ も、大きな記念祭となる――、又 た年でもあつて、人数からいつて かつたようだ。生促と連絡をとる 委員長以下、非常な限切り方だつ 祭の内容を覗いてみる。 ている。以下、簡単に今度の記念 | 年は合計八万円。生徒会と学校が 完成した体育館も、犬きく役立つ もらおうと思う」と語つていた。 のに大変傾利であつたようだ。氷 た。確かに、本部を設けたのは良 們委員会本部を観き永原高校執行 々大変だつた。会議室に、配念祭即 原委員長は「高三に大いに遊んで」 というわけで 盛大にやろう 去年よりより その準備も仲

うだが、

弁論大会の出場希望

面では案外生從は積極的であるよ

あつてはじめて紀念祭らしい気も

落成式に 思う

も半分ずつとする。

登 史

れない。いや、本核を形造る生徒一ざないかざり、わるいとは思わな 作りあげるという意識に燃えてい 来た年、全学生がそろつて来た今。 過去の僕遠は、新しいものを かと思う。 この開放的気分の出て うであつて期待される。予算は合 去の方が良かつたという気がす。生徒の自主性が生れるのではない 一人一人という者を考える時、渦一い。又、この開放的な雰囲気から 四万円ずつ支出し、模擬店の利益 て一段と発展したかと一という気持が生役間に担つて来た 僕ははつきり答えら一からだと思う、僕はこれが行きす が、僕は一番の原因は今までの雰 ちつかなかつたとと等色々あろう 因としては金学年がそろい生徒の 設備も徐々にそろつた近頃学校の 囲気というものから開放されたい ということ、工事の為に気分がお 数が増して目がとどかなくなつた 雰囲気が前と変つて来た、その原 新しい反講堂が出来、その他の

わけである。 生

定会

で

記念 祭を催すのは 祭が始まつた 同日という 今年も記念 戦も 校長杯争奪

昨

増す盛大さ

体育館を大活用

のだつた。征 主的に出てやろうというところが 々生促聞に呼 費用の問題等で取止めになつたも一そのまま学校生活の向上となるの 郷の強技が行 盛大だつた。 は去年も企画はされたが、結局、 合年は前夜祭が催された。これ 判が良いようだ。自 われる。これなど仲 今年は特に校長杯学 助会は生征数が多く

するわけなのだろう。こういう方は非常に嬉しいが、それと共に我 「真の学生らしざを失う事なく成長 々の心も、早く簡性からぬけ出し 派に出來上り、落成式を迎えた事 器盤も、少しせまい窓はあるが立 してゆきたい。

事を掛いた。 密成式を迎えて、自分の思った

生の指名とい

者はほとんび

しなかつたようで、先 う状態の学年が多か

つたようである。演劇も例年通り

一学年一つで行われる。特に変わ

新しい出発 й Ү •

つているのは「狂言」である。と

れは一流の狂嘗師に来てもらうそ

ではない。ぜひとも新しい校舎の 一我々生徒においても自らの努力が 園を作り上げてゆかねば ならな だという事を自覚して、力強く学 先生方の協力による事はもちろん 様に新鮮な意欲というものをとり もどしたい。 これには学校側、特に

長い間説々が待ちこがれていた

哥

▽配丸投

二位平野武彦0米41 四位田中学出了米多

杉古 杉西

本畑

四公田中常也

総合成績

第一位(55点) 第一位公命(公点)

型 経 星

2號0敗

0

庭

球

37.

命

〇バレーボー

ル

命公公命

公司忠社

1勝1敗 2 版

(開給コート) 9月1日(土)

4 310

4

同志社

哥

のコートが使用できなくなつたの

▽総市路 マ忠高跳

一位石井學史5米8

位同

1米50

牧中

三出二年4

411

マハ百米総定

一位田中、中國

石井、岡野1分48秒

▽浴

墨

3-0 4-3

同忠社 邓

211

命

マ百米

〇陸

F

▽八百米総是五位服部、安川、中

川、出

山加

田太

第9回私学綜合体育大会

ロハンドボ

ル

〇野

1102

総合成績第五位

▽売中間

マ三段別 ▽定高数

大心中川光市1米4種

梶佐 奥水

翻沿 田彦

3-4 2-4 0-4

位中川光市1米0種 位山田展也6米8種

京師310洛星

敗れ二位となった。

滞る頃となりました。戏学間も創 立六間年をむかえ、今年は高校第

園をとりまき、秋の気淵く大地に

するのである。我々にとつて廢液

しい事にあるのでもない。努力、

もくせい花の気高き香が、選学

がらせ、容人の歓喜をうたわんと事にあるのでもなければ、礼儀正

のない生活を送るととほど哀れな協力によつて多くの略波をし、立

派な学校を築いてゆく事にある。

浴

大合 2 211921

62117

1

浴

屋

上

マ百 〇陸

米

一位四野光博288 |位田中孝也3秒0

〇庭

平

一位大型昭夫一分三秒一

のパネは十人並以上。

同庶社中学で行なわれた最初の

縦横無限に活躍させ、おかげで目

マー回窓

〇バレーボー

ル

中学の

部

▽決 勝

里 9(5-3)5

37.

命

图 3-2

大

谷

洛星 12(75130)8

W.

安

14 的

部

211

浴

題

偏

戦

84A-2

37.

命

2 5

るのであります。

回卒業生を送り出さんとしてい

よつて生活する事を知らない人間 ものはない。心の底からの努力に

の人生はど無意味なものはない。

るべきものである。そしてこの洛 礼能作力、静粛はその手段とされ

No.

理の探求に潜々しい青春の情熱を

主

記

念

祭をむかえて

学園に、学業に、スポーツに、真

張

春

17

激

を

容には花咲き岩漿の緑がもえる

心に織ち潰ちている若人。その薬

う言葉を聞く。それは清酷を守る

のためにおいても今回六間年記念ととを期待する。

しい時代を作らればならない。こらしい記念祭であつたといわれる

声楽で言うならば発音法

き物を充分習得せねばならない。

我々はしばしば洛里のしさとい

将来の学園に車を来らされと競校 そして今では受験にいそしみ、

> めて生きがいのある人生を、学校 ぬ。その多くの総放売体得して始

なものにしなければならない。世 を豊富にし、強いては社会を豊富 没々は多くの感激を持たねばなら

**風**あしざによつて、学園生の人生

た配念気であるべきだ。

生活を過し得るのである。

何ものかを収穫してきたのである 究め、学問への優着を平めて毎年 ながら思索に耽つて人生の意識を 傾け、秋には散りゆく葉をながめ

### にあたられ、テニスコートも新たに南東の一角につくられて、いよいよ各クラブの活動もさかんに 当日陸上競技、ハンドボール、水上競技が行われ、野球、庭球、パレーボールは14日(土)に延期 第九回京都府私学総合体育大会は、九月十一日 (水)に限天のうちに西京極競技場で開会された。 **球では、最近傷秀なコーチをむかえ急酸な筋膜をみせていたが、傷臓戦でおしくも一点の差を以て** 敗で優勝した。高板の部では、ハンドボールに伝統的な強さをみせ、他校を圧倒して楽勝した。野 技に於て第二位の立命を一点の差でおさえて51点で幸勝。底球では、立命、同志社をおさえ2瞬O カつてきたようである。<br /> 幾級は歴史が緩いながらも<br /> 良好な成績をおさめた。<br /> まず中学では、<br /> 陸上競 された。本年体育の先生を二人むかえて、パレーボールには前先生、隣上競技には中田先生が指導

一公山田展他 部 對山加 奥水 關佐 京 田太 田渡 谷藤 商 〇 〇 〇 4 0-4 0-4 0-4 平安3-0洛星 杉古 松西 牧中 洛 木山 野西 里 本畑

4-0

浴風

高校の

## 2 2121 59 0

柔道部という名にふざわしい部を

部 大会をひかえ日ゼフ修道院のコー ト売借り、部員総動員で革かり、 歩み

庭

中学校入学後医球部が発足した。 村、片岡君以下数人といつたぐあ べ、一年生は時がたつにつれて中 部山泰須にあたり中一年生(高二 (高三)を加えて八十名に及ぶ大 の入部希望者は六十名、二年生 昭和二十八年現在の高二年生の 高島岩以下ずらりと秀才を辿 二年は高昌、野村、杉本、 球 て洛里库球部最初の郷かしい勝利 は、自転車の跡などで、でと深と 地ならし等の作業を行ない激しい ートは水たまり同様、晴れた日に 和三十年)には、機器時など、コ ふりかえつても思い出新しい。 探習の結果、一度ながら敵を倒し 現在の高二年生が中三の時(昭

部員はかなりあるが内部の出入は

3 6867

ンドすれば、どこへ行くかと目を わかる程度。行つたボールがパウ テニスをやつているということが 裏庭にクイを二本打ち、どうやら コートといつても中学校々舎の になつた。 たが上がめくれて効果は部かつた に新しくコートが作られ線響も楽 になったところをローラでならし この年の秋には、高校校舎の裏

一年)には、 庭球部規則が作めれ 三十

もとづく明るい、陽気な、勇気を を単なる年中行事の一個として過 い。であるからこの六間年紀念祭 持てる感激を生み出さねばならな 祭には立派な成果、協力の精神に はいけない。心のともつた、生き である事が多いが、そんなもので い。多くの場合、単なる問題騒ぎ のようなもので測足してはいけな してはならない。通俗的な文化祭 ている。創立においては先生方の おえた。土蜘蛛、羽衣などはすで りました。今日まで豊島弥左衛門 その後は生紀会の活動の一端とな 御指導によつて立ち上りましたが 曲部が加えられて後今日にいたつ Ш

界のこの<br />
面れた心を<br />
入れかえて新<br />
る、<br />
楽しい、<br />
そうして<br />
本当の<br />
浴星 労苦に報られるように、意義のあ 何はともあれ準備委員の蓄君の であるけれども、が曲においては る。期間にしては落数が少ない様 部と共に日本の古典的香りたる脳 又その間にはいやになる事も出来 などをおえ、今開野を練聞してい 門、枕慈慧、夜討曾戏、大仏供養 に発表したが、その他、雪、羅生一う。発足当時の様な部島数は、現 由部がつくられた。<br />
茶道部、<br />
尺八<br />
| との点で上端には時間を要する、 割三両師の指導のもとに数番習い 層を観るに、その内容は次第に元 今からちようと一年前にとの話して母につけるものなのである。

る、それが完成の途中においてよ **実向上の一途をたどつていると思** 柔道部の過去二年間半あまりの経 在見られないが、しかし小人数で ぶうちに自分で知り、おぼえ、そ それは一定のものではなしに、学 柔 道 部

たるべ、経歴の少ないことを考えると、ま ずまずといつたところだ。条道部「順しているのである。それ故に中 常に優秀であるとはいえないが、 がつちりとまとまつを部であると を機会に、部のあらゆる面の光実 本館を発揮したいと、部員一同念 生のみの柔道部として発展して来 を計り又、大いに練習に励みたい の部員も募集し、大いに柔道部の たのであるが、この機会に中学生 と思つている。いままでは、高校 線習を開始することが出来たこと 度、我々の念願であつた本校での 高─を主体とした面々である。今の部員は、高■の四名を頭として

全くがつかりする。

次第に部としての形を整えはじめ その他、色々と語聞した。 数名だつたが、次第に増加してき で一年から練習していたものは数 てきた。部員はほとんどが新部員 れは体育館建設のため、高校校舎 た。九月には一年生三十名を加え 名に過ぎず、二、三年合せて二十 端に新しくコートが作られた。こ 校外試合等に於ての他校との交際 会に於て奥田、水波組がナンバー 一六に入つたもの位であつたが、 との年の成績としては、秋季大 一名近くにもなつた。 今月四月には、運動場の南東の

を得たことは過ぎ去つた五年前を一た加太、佐藤、山根岩を加えて十 から思うように活躍できないのは 生であるし、また練習時間の不足 編入生で中学時代に括照されてい で学校に依頼して作つてもらつた 学班級部だつたものが十名位と、 な努力が除にはあつたのである。 来るまでには、周問の先生(小川 のである。六月には周囲に網の塀 も出来上がつた。このコートが出 残念である。 庭城部が発足した。部員は去年中 旧先生)や、他の人違のひじよう 三、四名である。しかしまだ一年 また、今年から高校にも新しく 分のみがおくれて、出来ないよう に思つて、なおさら出にくくなる あいである、こんなぐあいにして 。あげくにやめる。……と言うぐ て来る。又その上一度休むと、自 でやつてみようとする質飲もかけ 線習にも出たくなくなるし、自分 も見るに、今まく出来なくなると になる事が多い、自分の経験から であろうが、ことに芸事にはいや くみる事である。一般にでもそう | 学生の入部を飲迎する。 今後とも

な望みを持つてよいだろう。 中二には、これからの活躍に大き 大へん活躍している。また現在の つつある。 に中三の西山、松本組が出場し、 このように庭球部も年々向上し しかし、中学は今夏、府下大会

ろう。その為にも中学生の部員を つのつている。大いに歓迎する。 ブの中心となっているので、今後 は既に安定なものとなっていくだ せている。その点今は中三がクラ いたととろでやめてしまうのであ ち中三、高一から始めて一般落つ 上の者が少なくなつてしまう。即 しながらもやめてしまう事になり つてやめたりするので、折角上遊 つの理由となるかも知れない。 多くある。これが容数が少ない一 る。だから今は中学生に期待をよ 高二、高三の者はいそがしくな

闘をいくら募集しても集まらない 局の部屋を与えられないのも一つ ということにある。同員が一人も の理由ではあるが、それよりも局 集しているものは、熱意を失いか けている。それというのも、新聞 はつきりいらと、我々新聞を編

部まで…御柳崎のほどを…。 新聞に関心がないのかと思つて、類々は形が 面、三面、四面の編集にあたつた。 、仲田の三君が、それぞれ一面二 一些細な事でも結構だから、 今号は、高一〇の時野谷 Ŷ

本校公認陸

中学の部 部 0 八百継米 走 走 走 百 走 高 미 高 1/1 跳 跳跳 路 米 服部 石井惇史 安川 中川光市 中川光市 山田展也 山田展也 石井惇史 山田展也 新 明 京都インタ 近畿イ 京極 私学総体西 私学総体 京都インタ ハイ 微インタ タ 1 6 11 米米秒 60 81 7 1 5 米 米 50 48 分40 中黄目田瀬加 波 同 同 同 田旧 和一健夫彦一 正博 1 1 6 11 米 米 米 秒 55 55 11 9 1 5 米米米

40 40 0 4

ら、諸君の熱意ある御助力を願い だこれからというところであるか 念したいと思う。 んとしている。新聞部の発展はま 伝つて下さる事になり、なるべく 好意により松本君を始め五人が手 祭の事を考へて予算の関係上、と 二年六月に創刊されて六年になら 諸君の熱意ある声に従つて行きた の様になってしまった。 を追めていたのではあるが、配念 窓成式に出す予定で、着々と時間 る新聞、まつたく団が上らない。 仁な頃となつた。数カ月ぶりに送 作り上げたいと念題し又練習に専 今号は第二五号であり、一九五 次回から中学校生徒会からの御 スポーツの秋、読書の秋、と多 集 後 記 SIRYOKUDO. OPT., CO. 京都府立病院前